東北オータス 松島でGamcisユーザー会開催

26事業者57人が参加

事例講演3本、関連機器展示

東北オータス（木皿正志社長）は11月15、16の両日、宮城県松島町の松島センチュリーホテルで、最新システムのガス事業者向け説明会「Gamcis（ガムシス）ユーザー会2012」を開催し、都市ガス事業者19社のほか関連事業者7社から57人が参加した。前回の2008年から4年ぶりの開催で、今回は、新システム「Gamcis SMART（ガムシススマート）」を紹介。モバイル端末、クラウド活用などのメリットをPRした。

初日は東海ガス、一関ガスの2社が導入事例を、メーカーが製品紹介などを行った。現状のシステム活用状況や使い勝手に関する報告、モバイル端末を使ったシステムのデモなども実施した。

東北オータスのビジネスパートナーであるキヤノンマーケティングジャパン、東光東芝メーターシステムズは、ガスメーター遠隔検針システムの概要やハンディターミナルの製品などを紹介した。講演会場内にも機器を展示し、参加者がメーカーの担当者に質問する姿が見られた。後援の大阪ガスエンジニアリングは、マッピングシステム「マスターマップ」の概要などを紹介した。

ガスエネルギー新聞今井伸常務編集局長によるエネルギー動向に関する特別講演も行った。

2日目は石巻ガス本社に移動し、同社が震災の記録とシステム復興について講演した。

システム画面を使った説明で、現場の機能性をＰＲ

クラウドサービスを利用して

東海ガス経営管理室課長　大石直人さん

大石さん

当社は、1989年にマッピングシステムを導入し、2004年には同システムを大阪ガスエンジニアリングのマスターマップに移行しました。06年には一般ガス業務システムをGamcisⅡに移行しました。翌年に工事管理システム、モバイル保安調査システムを追加しています。12年には、サーバーの経年対策、耐震・安全性向上を目的に、GamcisⅡのサーバーでクラウドサービス利用を開始しました。

当社本社所在地は海岸線からは2㎞離れていますが、平地が続いており海抜4mです。そのため、近い将来発生すると考えられている東海地震、南海トラフ巨大地震などで津波被害を受ける危険性が十分あります。海抜5mまで浸水した想定では、本社と焼津支店は津波の影響を受けサーバーが被災して当面は利用できなくなります。

以前のGamcisⅡシステムは、サーバー導入から5年半以上が経過しており、保守部品の枯渇から十分なサポートが受けられず、障害発生のリスクがありました。さらにサーバーを設置するラックの耐震対策も万全ではありませんでした。

クラウドサービス導入後は、事務所のアプリケーションサーバーを撤去し、データセンターのサーバーにプログラムを導入しました。リモートデスクトップ方式（画面のみを各端末パソコンに表示する）を採用し、データセンターと事業所の回線の帯域を上げることなく、コストアップなしで既存の回線を使用することができました。これらの機能導入により、ユーザーの操作性に影響なく、GamcisⅡが使用できています。

今後の展望としては、社外でiPadを利用したGamcisⅡの使用を考えています。営業先でお客さまの所有機器の状況やガス使用量に加え商談で蓄積した情報を把握することで、営業活動の効率化、受付対応の省力化に活かすだけでなく、そのお客さまのライフスタイルにあった最適な提案へつなげることができます。

Gamcis SMARTの感想

一関ガス総務部総務・経理課長　千葉康さん

千葉さん

一関ガスは1986年から東北オータスのシステムを導入しています。平均6年程度で更新しており、今回が5度目のシステム更新になります。

2011年時点では前回のガムシスⅡ導入から7年が経過しサーバーが老朽化しており、保守サービスが受けられない状態でした。翌年、テープ保存ドライブが故障し、サーバー単体の更新を検討しましたが、今後の基幹システム全体の管理も含めて考慮し、システムを更新しました。

以前のシステムは、初期型のウィンドウズXPパソコンで販売管理システムを操作すると、エラー表示が出て画面が消えることがありました。今年6月にガムシススマートに更新し、同じパソコンでも端末として問題なく動作可能になりました。検索メニューを画面に常に表示するほか、検索機能も強化され顧客の問い合わせ電話を受け、顧客情報を引き出す際に、アパート名、顧客名の両方で一度に検索ができ、検索時間が短くなりました。

帳票類の整理でも大きなメリットがあります。帳票類はPDF化したことで、紙ベースで保存していたフォルダーが不要になりました。都市ガス以外のお客さままである非需要家の管理も容易になりました。

将来は、防災やサーバー老朽化対策の一環として、システムのクラウド化を検討しています。受付機能を強化し、社員全体のスケジュール管理ができるよう希望します。料金改定後の3年分の実績データを活用したガス料金シミュレーション機能も追加し、さらにシステムとして進化することを期待しています。

木皿社長あいさつ

弊社は1984年に設立し今年で29期目となります。29年の歴史の中でガス事業者向けのシステムは26年間とほぼ全期間にわたって携わっています。最初は、皆さまにシステムについて教えを頂戴していましたが、29年目になり30を超えるガス事業者さまにご採用いただけるようになりました。流通、病院向けシステムなども拡大することができましたが、経営基盤を作ったのはガス事業者向けシステムです。

ユーザー会は、3、4年に1回のペースで開催し、26年間で8回目となります。日頃のご愛顧に対する感謝、より効率よくシステムを使ってもらうための情報提供、ユーザーの皆さまからのご要望を聞くなどを目的にこれまで開催してきました。

今ユーザー会は次期製品として開発したGamcisSMARTのお披露目を兼ねています。Gamcisという製品のスマート版という意味です。スマートシティ、スマートハウスなどエネルギー業界が将来のイメージと捉えていることに貢献できるシステムを目指そうという意気込みで作りました。

震災後のエネルギーの動向と都市ガス業界の進む道

ガスエネルギー新聞　今井　伸常務編集局長

今井編集局長

政府は9月14日、「革新的エネルギー・環境戦略」をまとめました。これは民主党政権が力を入れ、三十数回議論した結果、示したものです。

大きな柱は2つあります。2030年代に原発稼働がゼロになるよう、あらゆる政策資源を投入するというものです。もう1つは電力制度改革です。

国は、環境問題、エネルギーセキュリティーなどの観点でメリットの大きい天然ガスコージェネを増やす方針を示しており、全体の発電量に占める比率を約15％にする目標が出されました。将来的に天然ガスを普及させるのにネックとなるのがパイプライン網です。

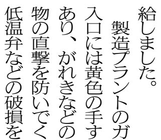
太平洋ベルト地帯には京浜、中京、阪神地方など大規模な工業地帯があります。これらの地域はパイプライン網でつながっていません。新規のパイプライン網の敷設場所は、近いうちに案が発表されると思っています。懸念される南海トラフ地震などが発生した場合、太平洋側が壊滅する可能性があります。その際、日本海側からガスを供給するのが有効です。

来年は、多くのガス事業者にとって恩恵を受ける、パイプライン網整備の幹線ルートが発表される見込みです。電力制度改革が進み、電力以外の新しいエネルギーを使うことができるようになるなどが予想されます。

石巻ガス　震災の記録とシステム復興

石巻ガスは、大井司製造部課長が東日本大震災発生に伴う津波によるプラント、社屋の被災状況を、北村清司取締役供給部長が供給設備の被害状況と復旧作業を、営業本部営業部の山田佳昭企画開発グループ課長代理が震災後のシステム復興について報告した。

製造部課長　大井司さん


大井さん

3月11日の東日本大震災発生後、約1時間で大津波が押し寄せてきました。私たちは避難民になって家族の安否がわからない状態でした。1日目は会社の屋上に避難しており、2日目はプラントの安全確保もあり中澤一男常務と一緒に待機しました。ほかの社員は方面が同じもの同士行動して家族の安否確認に向かいました。

石巻赤十字病院は広域圏の災害医療拠点病院です。3月23日の石巻赤十字病院への臨時供給開始は、復旧の大きな節目となり、3月23日～4月10日まで液式移動式ガス発生設備を使い、ガスを供給しました。

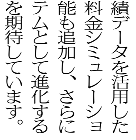
製造プラントのガス受入口には黄色の手すりがあり、がれきなどの漂流物の直撃を防いでくれ、低温弁などの破損を逃れました。同様に、改質ガスプラントと有水ホルダーががれきをガードする役割を果たし、球形ホルダーの損傷を防止できました。

取締役供給部長　北村誠司さん

北村さん

石巻ガスの供給設備の被害について報告します。津波を受けて、1階部分は完全に破壊され何もなくなるほどでした。北上川沿いのガバナーは水をかぶり本体は使えましたが、中の部品はすべて取り換えています。中圧管の健全性の確認作業は、工事業者に作ってもらった治具を使い、コンプレッサーでエアを中圧管に入れ、1日置いて確認しました。供給管が大幅に損傷している地区は中圧管から50㎜の管を取り出して仮設ガバナーで低圧管に供給しており、現在もこの状況です。集合住宅向けには1棟ずつ移動式ガス発生設備を設置し、臨時に供給する作業も行いました。

営業本部営業部企画開発グループ課長代理　山田佳昭さん


山田さん

全国の都市ガス事業者の応援隊による開栓作業が進む中、Gamcisのお客さまデータ処理は震災前日から更新が停止している状態でした。3月の月次処理を済ませないと、次のステップに進めないため、東北経済産業局、東北オータスと協議の上、データ処理を実施しました。具体的には、2月の使用量、使用期間を基準として1日の使用量を算出し、2月検針日から震災当日までの日数を乗じて推定調定を実施しました。

マッピングシステムは大阪ガスエンジニアリングのマスターマップを今年6月に稼働させました。以前は手書きの導管図でしたが、復旧作業で確認した敷設状況を盛り込みマッピングシステムを完成させました。

Gamcisとマスターマップのデータは、仙台のデータセンターを活用する方式に6月中旬から移行しました。震災に備えた体制であり、構築は東北オータスが行いました。

東北オータス Gamcis SMARTの紹介

東北オータスは、公共システムシステム課の阿部副部長、長澤薫係長らがGamcis SMARTの開発経緯や導入メリット、使い勝手などについて詳細を紹介した。

公共システム部副部長　阿部正

阿部さん

GamcisSMARTの開発経緯を紹介します。これまでのパソコンのバージョンアップに合わせて、SaaS（サービス、ネットワーク経由でサービスを使用し、利用料を支払うソフトウエア形態）、クラウドコンピューティング、デスクトップ仮想化技術、サーバー仮想化技術といった状況が出てきました。

今年開発しましたGamcisSMARTは、SaaS方式でサービスを提供します。主な特徴は①端末パソコンのスペックやOS種別に左右されずに、既存のパソコンや端末にOSが入っていないパソコンでも使用できる②iPad、ノートパソコン、スマートフォンなどさまざまなモバイル端末に対応でき、定期保安調査や訪問先で具体的な提案ができる③いつでもどこからでも、システムの利用が可能で外出先の営業支援や在宅勤務などが可能になる、④月単位で必要な時に必要な期間だけユーザーの追加・変更が容易にでき、コストを抑えることが可能⑤端末には顧客情報などを表示するだけでデータを残さないため、情報紛失した場合でも、情報漏えいリスクを軽減する―などです。

公共システム部システム課長澤薫係長

長澤さん

新機能では、ログインアカウントの統一、フリーキーワードによる検索などがあります。

ログインアカウントの統一については、今まで受け付け照会、料金、販売管理、財務会計のサブシステムそれぞれで必要だったログインを、1つに集約し、各システムを意識することなく利用可能にしました。

フリーキーワードによる検索については、1代前のGamcisNTまでは検索するキーワードを決めてから入力していましたが、新システムではインターネットの検索エンジンのように、キーワードを入力するだけで検索できます。

公共システム部システム課佐藤洋行主任

佐藤さん

GamcisSMARTを利用したモバイルシステムは、営業支援、閉栓処理などで活用できます。専用アプリを開発することでiOS、Androidタブレットで、払い込み票などの印刷が可能になります。